「広野町復興計画（第二次）（案）」に関する意見と意見に対する町の考え方

（平成26年3月31日現在）

No	頁・行	意見等の内容・理由	町の考え方
1	1	復興計画策定の趣旨の内容に平成24年3月1日に策定した「広野町復興計画（第一次）」を見直し、二次計画を策定する理由があげられていない。（新たな課題と対応が必要な理由）	今回の「広野町復興計画（第一次）」の見直しについては、震災後3年を経過し、同計画（第一次）の方向性を継承し、記載内容の時点修正を行うものであり、同計画（第二次）策定理由の記載を省略させていただきます。
2	1・5	約5,000名の町民とあるのは、 <u>5,000</u> 余名の誤りか。	約5,000名の記載といたします。
3	1・12	「 <u>ピンチをチャンス</u> 」として捉えとあるが、表現としてはどうか？ 「 <u>災害の教訓を糧</u> 」にしての表現のような表現が良いのではないか。	単に震災から復旧するだけでなく、発想を転換し、魅力あるまちづくりを目指すことから「ピンチをチャンス」の記載のままといたします。
4	1・12	「 <u>ピンチをチャンス</u> 」として捉えとあるが、ピンチをチャンスに変えるという考え方はとても共感できますが、原発事故を肯定したような表現にも取れるので、「 <u>ピンチを乗り越え</u> 」や「 <u>ピンチを脱却</u> 」の方がやる気が湧くと思う。	単に震災から復旧するだけでなく、発想を転換し、魅力あるまちづくりを目指すことから「ピンチをチャンス」の記載のままといたします。
5	1・13	「 <u>笑顔が輝く子どもたちの歓声が聞こえ・・・</u> 」は「 <u>子どもたちの歓声が聞こえ・・・</u> 」で十分なのではないか。	町の最上位計画である第四次広野町町勢振興計画でに掲げた町の将来像を目指すことから、「笑顔が輝く子どもたちの歓声が聞こえ・・・」の記載のままといたします。
6	2	一次計画では24. 25. 26年を復旧期としていましたが、 <u>2年間に短縮された理由</u> があげられていると良い。	復旧期における復旧や除染作業が想定以上に進捗し、復旧期を2年とさせていただきます。
7	2	復興計画は、振興計画を補完するための策定であるならば、 <u>復興計画の終期33年を振興計画と同じ32年にすべきである</u> 。	ご指摘のとおり復興計画は、振興計画を補完するものでありますが、復興計画の計画期間は10年間とし、終期を33年のままでといたします。

No	頁・行	意見等の内容・理由	町の考え方
8	2	(3)計画の期間 前期復興期、後期復興期とも各1年間短縮して、計画期間を計8年にしてはどうか。	計画の期間は、No.7と同様に計画期間は10年間とし、前期復興期、後期復興期いずれも4年間のままといたします。
9	3	(1)復興のシナリオ 広野町は双葉地域復興の拠点であり、まさに世界中が「フクシマの復興」を注目してる。そういう意味でも他地域のモデルとなるよう迅速な対応が求められる。単に復興というだけでなく、これを機に今までにない広野町、より活況を呈する町づくりをお願いしたい。	左記記載のとおり、広野町が復興のモデルとなるよう努めて参ります。
10	3・7	わが国だけではなく世界中が注目しています・・・について「わが国だけではなく」の表現に違和感を感じる。	東日本大震災および原発事故については、全世界が注目していることを表現するため、「わが国だけではなく世界中が注目しています・・・」の記載のままといたします。
11	11・21	想定外の津波に対応・・・とあるが、 <u>想定外のものには対応できない</u> 。だから想定外というのではないか。	大規模な津波に対応・・・との記載に修正いたします。
12	22	●農用地の復旧の項目 ・基盤整備等の条件整備 ・担い手がまとまりのある形での農地利用できるよう配慮する。 を追加してはどうか。	農地・農業生産基盤施設等の整備という記載において、左記のご意見が反映できると考えております。
13	22	●農地・森林・河川の除染対策の研究、取組 農業用ため池を追加してはどうか。	農業用ため池の除染についても国等と協議をしております。より効果的な農地や森林・河川等という記載において、左記のご意見が反映できると考えております。
14	26	●地域コミュニティ・絆の再生 ・行政区長を中心とした地域コミュニティ活動を支援する。 を追加してはどうか。	地域コミュニティ・絆の再生において、行政区長の役割は大きいことは認識しております。しかしながら、地域コミュニティ・絆の再生の主役は、住民であり、現状の記載のままといたします。
15	27	●警察機能の拡充 警察機能・消防機能の拡充にしてはどうか。	警察機能については、防犯に関する観点での記載であるため、現状の記載のままといたします。

No	頁・行	意見等の内容・理由	町の考え方
16	27・13	放射線被害に対応できる医療機関……。福島医科大学が放射線医学、研究、治療拠点となっているが、そこまでなく、原子力災害時であれば福島労災病院も指定されているはずですが。どのような事をイメージしているのか分かりにくい。	「放射線被害に対応できる一次医療機関の整備」の記載を、「放射線被害に対応できる初期被ばく医療機関の活用、整備」の記載といたします。
17	34	* 印の各用語の説明は、34頁に用語集を掲載するよりも、 <u>各頁の下段に解説文を掲載した方が親切</u> なのではないか。	各用語の説明については、現状のままといたします。
18	全体	復興計画が前期復興期に突入するので、 <u>復旧期(H24～H25年度)</u> における復旧実績を末尾に載せることに、この書面だけを見た町民であっても、町の取り組みや復興に関する進捗状況が一目で分かると思う。	町の取り組みや復興に関する進捗状況については、国および県と共同で策定する帰還定住プランや別の方法でお示しして参ります。
19	全体	大変素晴らしい復興計画(案)であると思う。実現することは、いろんな困難、壁があると思うが、企画グループを中心に頑張っていたきたい。復興に向けて、大いに協力をしていきたいと思っている。	町民の皆様と協働を図り、広野町の復興に努めて参ります。